

平成 26 年度山梨県再生可能エネルギー等導入推進基金事業評価委員会

○第 2 回会議

- ・日時 平成 27 年 3 月 16 日（月）午後 4 時 00 分～
- ・場所 企業局第 1 会議室
- ・出席 大山委員、島崎委員、中田委員

○議事録

1. 平成 27 年度事業実施計画について

委 員	発 言 内 容
事務局	再生可能エネルギー等推進事業実施状況（資料 1）、再生可能エネルギー等導入推進基金事業計画に係る進捗状況（資料 2）について説明
中田委員	街路灯の導入あるいは蓄電池の導入容量が多くなっているからか、資料 2 の再生可能エネルギー設備の定格出力について達成率が低い、問題はないのか。
事務局	申請時の全体計画では、各市町村とも太陽光 13kW、蓄電池 10kWh で記載をしていたが、各市町村の設計によって詳細検討を行った結果、夜間電力が重要視し、蓄電池の容量を増加させる市町村が多かった。 全体計画は暫定的なものであるため国への報告については問題ないとする。
中田委員	了解した。太陽光発電出力の代わりに蓄電池容量が増えているということで説明すれば、目標としても妥当と考える。
島崎委員	資料 2 の年間発電量については、施設稼働後に実測を行うことにより評価するとあるが、そのタイミングは。
事務局	来年度末が評価の最終になるので、その時までにはまとめることとしたい。
中田委員	平成 27 年度事業において平成 26 年にも補助事業による設備導入を行っている市町村に対して、新たに補助を行うことについて問題はないか。
事務局	各市町村に照会をかけており、公平性は確保できると考えている。

大山委員	山中湖村、早川町で実施されないのはなぜか。
事務局	<p>山中湖村については北富士演習場があり、防衛省関係の補助により再エネ設備を導入すると聞いている。防衛相補助金は、必要最小限の設備導入が求められる本補助事業と比較して規制も少ないことから村で判断の上、設備導入を行っている。</p> <p>早川町については、太陽光については立地的に厳しい状況である。バイオマスや小水力についても職員も現地確認を行い検討したが、適地がないことから事業実施を断念している</p>

2. その他

委員	発言内容
事務局	<p>次回の評価委員会は、事業の評価をしていただきたいと考えている。日程については調整するので、よろしく願います。</p>
各委員	<p>－了承－</p>